

デートDVってなに？

配偶者等からの暴力を「DV（ドメスティック・バイオレンス）」といい、重大な人権侵害です。そして、最近は10代～20代の高校生・大学生などの若い世代でも大人のDVと同様なことが起こっています。

配偶者等からの暴力をDVと呼ぶのに対し、交際相手からの暴力を**デートDV**と呼んでいます。内閣府の調査によると、女性の7人に1人が交際相手からの暴力被害を受けた経験があると答えており、深刻な状況です。

デートDVチェック

身体的な暴力

- ・突き飛ばされたり、壁に叩きつけられる
- ・殴る、蹴るなどされてケガを負わされるなど

経済的な暴力

- ・お金を払わせる
- ・お金を貢がせる
- ・貸したお金を返してもらえないなど

行動の制限

- ・相手の携帯電話のメールや着信履歴を勝手にチェックしたり、アドレスを消したりする
- ・行動や服装などを細かくチェックしたり、指示したりするなど

これ
も
暴
力
で
す

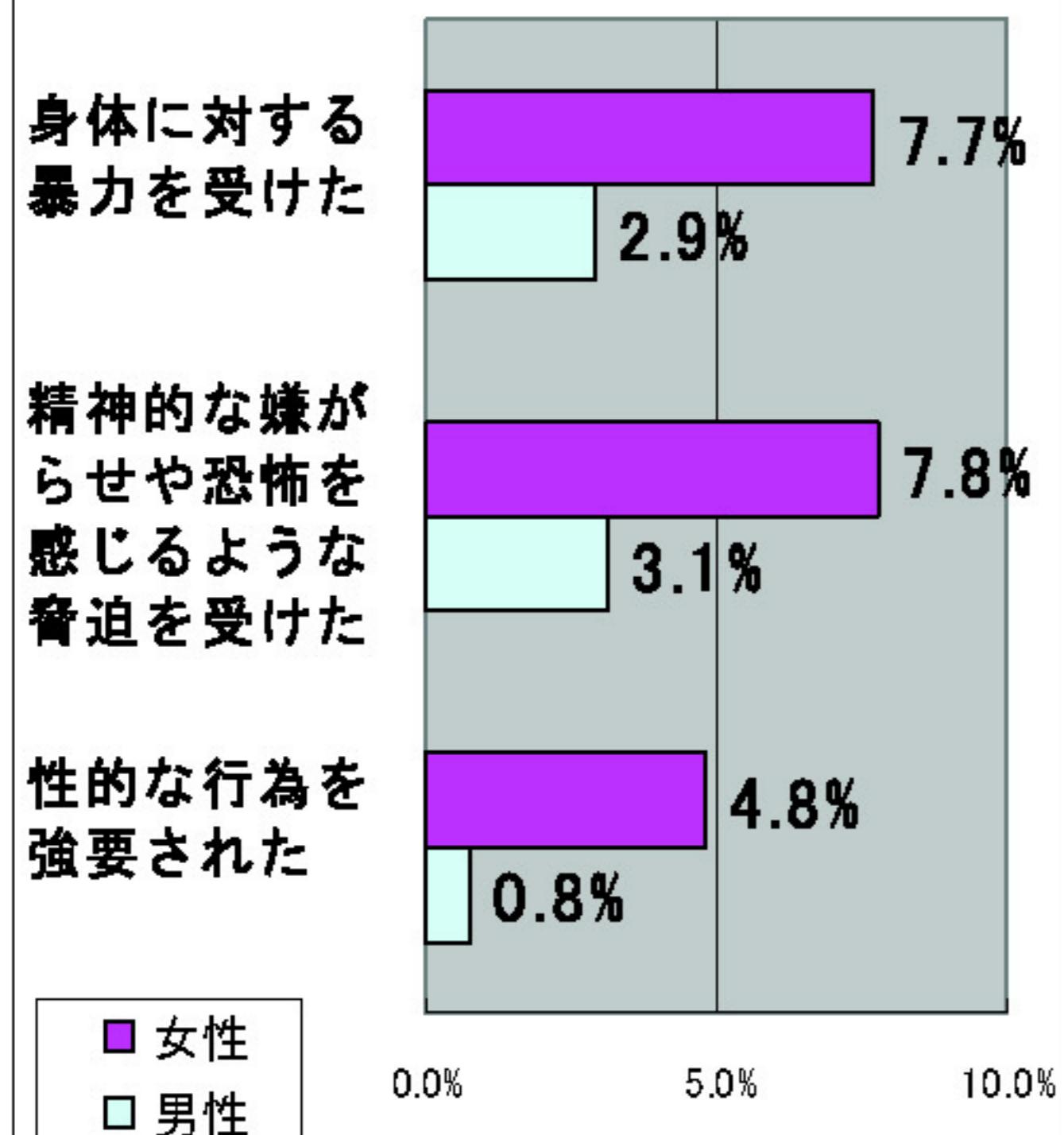
精神的な暴力（心理的暴力）

- ・相手に向かってばかにした言葉や汚い言葉を言う
- ・相手を繰り返し批判したり否定的なことを言ったりする
- ・皮肉や嫌味を言う
- ・相手の前で物を投げたり、壊したりする
- ・無視する
- ・すぐ不機嫌になる
- ・なんでもひとりで勝手に決める
- ・「別れる」と言って脅す
- ・「自殺をする」と脅すなど

※ひとつでも該当する項目があれば、デートDVの可能性があります

デートDVの実態

交際相手からの被害経験 (10代~20代)



参考 「男女間における暴力に関する調査」
内閣府男女共同参画局 平成21年3月

力と支配の関係



暴力容認の意識

内閣府では女性に対する暴力の問題への認識を深めるため「女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク」を制定しました。

ジェンダーバイアス (男女の役割の押しつけ)

デートDVはなぜ起こるか?

デートDVの原因には、親密になることで相手のことを「自分のもの」と考えてしまい、相手を思い通りに動かしたり、相手の人格や意見を無視して自分の価値観を一方的に押しつけたりする「力と支配の関係」、「暴力を容認する意識」、「ジェンダーバイアス(男女の役割の押しつけ)」が根底にあります。そのため、相手が自分の思い通りにならないと暴力を使ってしまいます。

デートDVをなくすために

デートDVは被害者が暴力を愛情表現と誤解し、DVを受けていることを自覚していない場合が多くみられます。また、悩んでいても「自分が悪かったから」と考え、誰にも相談できず被害が深刻化していることもあります。

どんな理由があっても、どんな間柄であっても**暴力はあってはならない**ものです。

それぞれの考え方や価値観の違いを受け止め、思いやりを持ってお互いの個性を尊重できる関係を築いていきましょう。



一人で悩まず、まずは相談してみましょう

青森県女性相談所

DVホットラインフリーダイヤル 0120-87-3081 24時間対応
電話相談 017-781-2000
平日8:30~20:00 土日・祝日9:00~18:00

全国共通DVホットライン

フリーダイヤル 0120-956-080
月曜日~土曜日 10:00~15:00

青森県男女共同参画センター(アピオあおもり)

017-732-1022 (相談専用ダイヤル)
9:00~16:00 水曜日を除く

DV相談ナビ(内閣府男女共同参画局)

※自動音声により指定地域の最寄りの相談窓口をご案内します
ここに電話 0570-55210 24時間対応

青森県西北地域県民局健康福祉部福祉こども総室

0173-35-2156
平日8:30~17:15 土日・祝日を除く

女性の人権ホットライン(青森地方法務局)

ゼロナンバーホートライン 0570-070-810
平日8:30~17:15 土日・祝日を除く

編集後記

自分と相手を大切にできればDVはなくなる。今一度行動をチェックしてみては?(Y)

編集スタッフ

境谷 葉子、福士 千恵子、三由 恵子、千葉 敦子、笹森 知嘉子